

二〇二五年八月一五日

刺繡めく水引の花綴る道

むべ

二〇二五年八月一四日

炎天へ溶けてほぐるる飛行雲  
存問のごと墓碑に群る赤とんぼ  
鉄橋をシルエットとす大夕焼

康子  
康子  
むべ

二〇二五年八月一三日

雨意告ぐるやに風鈴の連打しぬ  
と見るまに一村閉ざす霧襖

あひる  
澄子

二〇二五年八月一二日

向き変ふる鯉の動きも涼新た

ぽんこ

二〇二五年八月一日

大鉢を並べ堂前蓮浄土  
秋天を支へて朱なる大鳥居  
笹叢を雁字搦めに藪からし

康子  
あひる  
むべ

二〇二五年八月一〇日

落し水和して響けり千枚田  
盆供養若き僧侶の声に和し

みきお  
千鶴

二〇二五年八月九日

嬰のごと両手に抱く大西瓜  
盆用意鬼籍の夫に語りかけ

澄子  
たか子

毎日句会みのる選・二〇二五年八月一七日